

『命の山王』

No.32 令和6年2月1日(木)

正直者のジョージ

先日、ある小学校へ出前授業へ行ってきました。中学校進学に向けた心構えについて話してほしいということでしたので、「何のために中学校があるのか」「山王中学校でやっていること」「今、何をすべきか」について、小学6年生に話してきました。

素直で、一生懸命に話を聞く児童たちで、思わず「みなさんの先輩達も正直者ががんばり屋さんが多いですよ」と言っていました。そんな正直な心が自身を成長させてくれるのだと思います。失敗は誰にでもあるものですが、失敗したときにどうするかがその後のみなさんの成長に大きく影響します。そこで、今回は去年の「命の山王」に載せたこんな話を紹介します。

昔、アメリカにジョージという6歳の男の子がいました。ジョージは刃物を扱うお店から斧（おの）を借りました。その斧があまりにも魅力的で、彼は試しに切ってみたくまりました。ジョージは父親が大切にしている木だということをも忘れ、庭の木を根元近くから切り、その木を倒してしまいました。

当然、後で父親に見つかり「私の大事な木を切ったのは、お前だね？」と尋ねられました。

ジョージは父親をだまそうか、正直に言おうか一瞬悩みましたが「僕は嘘をつけない。お父さん。僕が切りました。」と正直に話しました。

それを聞いた父親は「ジョージ、お父さんは嬉しいよ。お前がしたことは確かに悪い。でも、自分の悪いことを素直に認め、謝るのは勇気のない弱虫にはできないことなんだよ。それは千本の木より価値があることだ。」と言い、彼を許してやりました。

こうして、彼は正直であることの大切さを知りました。

彼の名は「ジョージ・ワシントン」、アメリカの初代大統領になった人です。



もう一人アルという少年がいました。彼は小さい頃とても貧しく、お腹が空きすぎてパンを盗んでしまい、店の人に捕まりました。

そのときアルは「僕は盗んでないよ。」と嘘をつきました。何度言われても「僕はやってない。」と嘘を言い続け、そのまま言い逃れたのでした。その後、彼は次々と盗みや悪さをはたらきますが、上手く逮捕を逃れていきました。こうして彼はシカゴの町で一番のギャングになりました。

彼の名は「アル・カポネ」、アメリカを代表するギャングの一人です。

年月を経て、ついに逮捕されたアルは、「どうして、俺が捕まらなくてはならないんだ。こんなに社会の役に立つことをしてきたのに。」とうそぶいたそうです。

2人の人生を分けた要因の一つは、失敗したときに「正直に話すか」「嘘をつくか」だったのではないのでしょうか。正直に話す人は、たとえ失敗しても、周りの人から信頼される人になっていきます。みなさんが成長する途中で失敗やトラブルは必ずあります。そんなとき、勇気を持って正直に話し、自身を成長させることができる人になってほしいと願っています。4月には、1年生は正直な心の大切さを後輩に伝えられるように、2年生はそれを行動で示せるように、3年生は自信をもって新しい場所で生活を始められるように。

〔生徒指導主事：相場記〕

時間に余裕をもった登校を！

冬季に入り、登校時刻が遅れ気味になっています。特に、降雪や吹雪の時は通常よりも時間がかかる傾向にありますので、時間に余裕もって家を出て、朝8：05には生徒昇降口を通過できるようにしてください。